私たちを動かす夏祭り

最近、地元の夏祭りに行きましたか。幼いころ、楽しみにしていた夏の恒例行事。私たちがおとなになった今も、準備や運営をする人の手を動かし、会場を訪れる人の心を動かしています。次の夏は、夏祭りを動かす人になってみませんか。

問合せ　参画協働室　☎（740）1105

親心が生んだ新興住宅地の伝統

ベッドタウンとして発展してきた川西市。昭和40年ごろから新興住宅地の開発が進み、新しいまちが次々と生まれました。そこにはまだ歴史がありません。

全国各地から川西に移り住んできた人には、それぞれの生まれ故郷があります。そこで古くから受け継がれる祭り。盆踊りを踊り、夜店で遊ぶ景色を、幼いころから見てきました。

「自分の子どもにも、生まれ育ったまちの祭りを見せてあげたい」

住民同士で知恵を絞り、昭和43年に大和地区で、市内の新興住宅地で初となる盆踊りを開催。そこから数年後には市内全ての新興住宅地で夏祭りが始まりました。

あれから49年。今年も市内各地で盆踊りや納涼祭が行われます。

その一方で、規模の縮小や中止を迫られる地域があります。続けることは簡単ではありません。

約半世紀も受け継がれてきた夏祭り。幼いころに夏祭りの記憶をもつ私たちに、何ができるのか考えます。

手作りの ふるさとを継ぐ

準備から片付けまで、夏祭りの開催にかかる期間は１カ月以上
華やかな夏祭りの舞台裏には支える人がいます

大和自治会
会長　後藤芳昭さん

２段のやぐらを中心に踊る盆踊り。25店以上並ぶ夜店。今年で49回目を数える「ふるさと大和納涼盆踊り大会」に、昨年は延べ５０００人が訪れました。

大和自治会で会長を務める後藤さんは、約50年間大和地区を見守ってきた一人。盆踊りが始まったころをこう振り返ります。

「引っ越してきた昭和43年当時、この辺りは開発が始まったばかり。まるで移民のようでした」

家は点々としかなく、空き地が目立ち、道は農道のように狭い。そんな場所に移り住み「開拓」してきた住民たちには、共通する思いがあったと話します。

「大和を『ふるさとにする』。それが原動力となり、自治会ができた翌年から盆踊りを始めました。ここをふるさとにするには、地域で交流できる場が必要だったんです」

移り住んできた私たちに共通していたもの

盆踊りを企画・運営するのは地域住民。サラリーマンが慣れない機械で綿あめを作り、大きな鉄板で焼きそばを作りました。手作りですが大規模なイベントになり、地域外から足を運ぶ人もいたといいます。

「今でも、商店会と協力して、住民が夜店を出しています。盆踊りに参加する日本舞踊のグループや太鼓連のメンバーも大和に住んでいる人ばかりですよ」

しかし、今後も続けていくのは簡単ではないと後藤さん。祭りを支えてきた住民は高齢になりました。やぐらの立て方や電気の配線などのノウハウを次の世代に受け継がなければ、盆踊りは続けられません。必要なのは、技術や知識だけではありません。

「あと数年経って、『ふるさとにする』という思いを持っている自分たちが退いたとき、いったいどうなるんだろうと不安になります。でも、ここをふるさとだと思う人が、盆踊りを受け継いでくれるとうれしい。盆踊り大会に合わせて、帰ってこられる場所であり続けてほしいです」

高校生の「出演したい」。工夫のかいがあった

多田小学校区コミュニティ推進協議会
会長　中川憲男さん

「昨年から高校生などの若い世代が会場に来てくれるようになったんです。工夫してきたかいがありました」

中川さんが会長を務める多田地域では、昨年から「盆踊り」を「サマーフェスティバル」に変更。ステージでの出し物を中心としたイベントに一新しました。地域の高校から、ヒップホップダンスと軽音楽のグループが出演。同級生や家族などが集まり、パフォーマンスを見守りました。

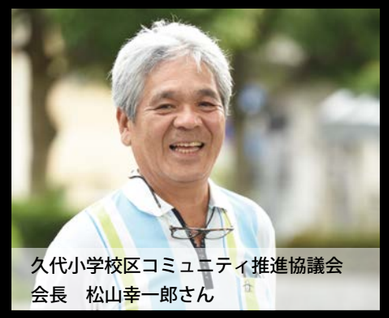
「昨年の参加者から、今年もぜひ出演したいと連絡がありました。そんなうれしい依頼、むげにはできません。練習してきたことを発表する場として活用してもらえるよう、プログラムを組んでいるところです」

今年はステージイベントと並行して、昨年行わなかった盆踊りを復活する予定と中川さん。昔から続く盆踊りと、流行のダンスパフォーマンスなどのステージが同時に楽しめる「サマーフェスティバル」は、世代を超えた交流の場をめざした結果でもあります。

それでも、全ての課題が解決されたわけではありません。担い手不足や少子高齢化に加え、会場から離れた場所や川を挟んだ対岸に住む人が足を運びにくいといった多田地域特有の課題もあります。

「今年は津軽三味線のグループも招こうと考えています。調整には時間と手間が掛かりますが、多くの人に来てほしい。地域のお祭りを楽しんでほしい。それが一番なんです」

「手伝うで」の声に、近所のつながりを感じる


久代小学校区コミュニティ推進協議会
会長　松山幸一郎さん

日焼けした肌が印象的な松山さん。北久代自治会の会長も兼任しています。

「今日は10軒回ってきました。新しくできた店も協賛を約束してくれました」

８月26日㈯に北久代自治会で開催する盆踊り大会は、地元事業者の協賛のおかげで成り立っています。盆踊りが始まった35年前から、地域を盛り上げたいという思いで協力。昨年集まったのは40事業者です。久代では同じように協力を得て、７自治会で盆踊りが開催されます。

地域を盛り上げたいという気持ちは、事業者だけでなく住民にも広がっています。

「祭りが近づくと、『準備はまだかぁ、いつでも手伝うで』と声を掛けてくれるんです。積極的に手を貸してくれるのはとても助かりますね」

やぐらを立てたり、ちょうちんを飾ったりする手伝いを募集すると、すぐに十数人が集まってくれると松山さん。

「子どもたちのために、夜店などは赤字覚悟でやっています。やっぱり子どもがいないと地域が盛り上がらないんです」

祭りを活気づける「おどり隊」の存在も、欠かせないと松山さん。地域で練習しているチームに加えて、周辺地域から踊り子が応援に駆け付けます。

「自治会の小さい単位で行事をやっていると、必然的にご近所さんの顔を覚えます。地域とのつながりを強く感じています」

本番まで連日自治会館で練習を重ねる「ゆかた連」のメンバー（前列右端に赤尾さん）

「サマーフェスティバル」で演奏する「アイスクリーム」のメンバー（中央右に谷村さん）

私たちをつなぐチカラ

離れて暮らす家族やそこに暮らす人たちをつなぐきっかけ
夏祭りがあるまちに住んでいるからこそ必要だと実感

地域の夏祭りがきっかけで、家族や地域とつながることができます。そのつながりを実感する3人に話を聞きました。

夏祭りの日に合わせて帰省

大和地区に住み、ゆかた連に所属する赤尾登代子さん（写真右）と田原ひろ子さん。子どもたちは独立し、市外で暮らしています。東京に住む赤尾さんの娘・息子夫婦と孫たちは、毎年夏祭りに合わせて帰省します。

「夏祭りがあるから帰っておいで、と声を掛けやすいんです」

小学生の孫たちは夜店を楽しみにしていると笑顔の赤尾さん。

「近所でもこの時期に帰ってくる人がたくさんいるので、夏になるとよく話題になります。息子も夏祭りで同級生に会えるのを楽しみにしているようです」

盆踊りで孫たちをもてなす

娘夫婦と孫が夏祭りに訪れるという田原さん。夏祭りの必要性を強く感じています。

「実家がある限り、娘もこのまちに帰ってきてくれると思う。でも、自分たちがいなくなったら分からない。夏には子どもたちが帰ってこられるように、今は必死に夏祭りをもり立てようとしているんです」

盆踊りを盛り上げるため、踊りの練習を重ねる毎日。夏祭り当日は華やかな盆踊りに参加し、訪れる孫たちをもてなします。

地域の人に活動を知ってもらう

県立川西緑台高校でギター部に所属する谷村友大さん（写真左）。ギター部に入ったきっかけの一つが夏祭りだったそうです。

「緑台高校の先輩が夏祭りで演奏しているのを見て、かっこいいなと思ったんです。部活を選ぶときにそのことを思い出して、入部しました」

昨年、夏祭りのステージに5人組バンドで出演。ギターとボーカルを担当しました。当日は、親も見に来てくれたそうです。

「屋外での演奏は初めて。汗でギターの弦が滑らなくて困りました。でも、すがすがしい気持ちで演奏できました」

校内発表会とは違い、地域に住む幅広い世代に向けての演奏。誰もが耳にしたことのある曲を選ぶなど、工夫をしたそうです。

「地域の皆さんに高校でどんな活動をしているのか、知ってもらえる機会。そう思うと気が引き締まりました。また今年も出られるように、練習をしています」

帰ってこられる場所を残したい

あんばいささちかわにし

まちづくりの主役は私たち

地域の夏祭りは住民の力で開催されています。主体は自治会やコミュニティ組織などです。

地域活動を活性化

市内には、おおむね小学校区単位で14のコミュニティ組織があります。地域の皆さんが構成員となり、自治会やPTA、福祉の活動をしている団体などと連携。住民自らが地域課題の解決や、住みやすいまちづくりのために活動しています。

市ではコミュニティ組織を中心に、地域活動を活性化するための仕組みとして、地域分権制度を検討。全てのコミュニティ組織で同制度を活用し、活動しています。

コミュニティ組織で課題解決へ

コミュニティ組織での活動内容は大きく分けて2つあります。

一つは、住民同士のコミュニケーションを目的とした活動。住民同士で親睦を深め、人間関係を築く場をつくります。顔見知りが増えることで孤立する家庭を減らし、災害などの緊急時に助け合えるまちをめざします。

もう一つは、住みやすい環境づくりのための活動。高齢者・子育て世帯への支援や地域の清掃活動、防犯・防災訓練などに取り組んでいます。

地域に関わっているからこそ気付くまちの課題。解決することができるのは、地域に住む私たちです。

夏祭りを支える 地域を応援

参画協働室　主幹　清原多恵子

市内各地で夏の風物詩として定着している夏祭り。1つの自治会では規模が小さいため、開催が難しくなっているところもあると聞いています。しかし、古くから地域の歴史を大切にしながら、魅力あふれるイベントを開催しているところもたくさんあります。その陰には必ず、たくさんの支えてくれる人の力があるんです。

大勢が参加するイベントは、小さな自治会だけで開催するのは難しいのが現状。でも、地域を広げ、コミュニティ組織で開催している地域は多数あります。地域の課題をみんなで考え、実情に合わせた活動を行っています。

市ではコミュニティ組織に対して、活動に必要なお金を「地域づくり一括交付金」として交付。これからもコミュニティ組織や自治会などの活動を応援していきます。

この活動を通じて、顔見知りを増やし、小さい子どもからお年寄りまで交流の輪を広げてほしい。誰かが困っている時には支え合えるような地域づくりにつながればと考えています。皆さんも、地域のイベントに参加することから始めてみませんか。

やってるよ！

今年の夏祭り

自治会・コミュニティ組織などが開催する
盆踊りや納涼祭を一部紹介します

問合せ 参画協働室　☎(740)1105

7月29日(土)

東谷｜東谷ミニ夏祭り
午後5時から（雨天時30日(日)）
＠見んな野ふれあい広場

川西北｜盆踊り大会
午後6時半から（雨天時30日(日)）＠川西北小学校

7月29日(土)・30日(日)

清和台｜清和台地区納涼祭
午後6時から　＠清和台中央公園

8月5日(土)

北陵｜北陵ふるさとまつり
午後6時から　＠北陵多目的広場

けやき坂｜けやき坂納涼祭
午後4時から　＠けやき坂中央公園

8月5日(土)・6日(日)

牧の台｜ふるさと大和納涼盆踊り大会
午後6時半から　＠平木谷池公園グラウンド

緑台・陽明｜サマーカーニバル2017
午後5時半から　＠陽明小学校

桜小｜ふるさと祭盆踊り大会
午後7時から　＠桜が丘小学校

川西｜夏祭り（盆踊り）
午後6時から　＠川西小学校

8月26日(土)

多田｜サマーフェスティバル
午後4時から（雨天時27日(日)）　＠多田小学校